

PINK RIBBON

監督・撮影・編集 藤井謙二郎 出演 黒沢 清、高橋伴明、井筒和幸、女池 充、池島ゆたか、吉行由実、若松孝二、渡辺 護、足立正生、田尻裕司、林田義行、森 章 他 プロデューサー 浅井 隆

製作・配給:アップリンク/2004/日本/1時間58分/DVCAM/カラー/ステレオ/英語字幕 www.uplink.co.jp

With English Subtitle



第23回 バンクーバー国際映画祭
第28回 モントリオール国際映画祭
第9回 釜山国際映画祭
第34回 ロッテルダム国際映画祭
第14回 フィラデルフィア映画祭
第54回 メルボルン国際映画祭

ピンクリボン



ピンクリボン With English Subtitle

Q1: あなたは、ピンク映画を観たことがありますか?

☐ YES ☐ NO

Q2: ピンク映画が作られてから今年で〇〇年である。

☐ 30年 ☐ 40年 ☐ 43年 ☐ 50年

※1962年 ピンク映画第1号といわれる小林悟監督『肉体の市場』が公開されてから2005年で43年目。

Q3: 日本映画の年間製作本数の1/3はピンク映画が占めている。

☐ YES ☐ NO

※現在も年間90本以上の新作が製作されており、それは日本映画の製作本数の3分の1を占めている。

Q4: “ピンクリボン”ってどういう意味?

☐ 乳癌の早期発見治療のキャンペーン ☐ ピンク映画に与えられる賞

※ブルーリボン賞(スポーツ紙7紙の映画担当記者で構成)に対抗して1980年にピンクリボン賞が設立された。第1回監督賞は渡辺護監督が受賞。

昨年9月にワールドプレミアされたバンクーバー国際映画祭を皮切りに、モントリオール、釜山、ロッテルダム、フィラデルフィア、メルボルンといった世界の映画祭が注目したドキュメンタリー映画が『ピンクリボン』です。数百万円という低予算、平均3日程度の撮影日数、しかも35ミリフィルムによる撮影という過酷な製作状況にもかかわらずピンク映画が日活ロマンポルノの誕生と衰退、そして最大の強敵といわれたアダルトビデオの普及を横目に見ながらも、現在迄たくましく生き延び作られ続けてきたことは、正に驚異的と言うほかありません。この映画はそんなピンク映画の歴史と現在を築いてきたプロデューサー、監督、俳優、配給、興行関係者へのインタビュー、そして新たにそこにチャレンジしてくる若い人たちの姿を通して彼らの「情熱と知恵」を探り、記録したものです。

監督・撮影・編集: 藤井謙二郎 1968年東京生まれ。大学卒業後大学院修士課程にて映像を専攻。在学中より広告カメラマン助手を勤める。記録映画製作会社ディレクターを経て2001年、初の長篇『与森山大道』(監督・撮影・編集)が劇場公開となる。翌年、『曖昧な未来、黒沢清』でTokyo Filmex 2002観客賞受賞。2004年には『与舟越桂』も劇場公開され話題を呼んだ。

監督・撮影・編集 藤井謙二郎 出演 黒沢 清、高橋伴明、井筒和幸、女池 充、池島ゆたか、吉行由実、若松孝二、渡辺 護、足立正生、田尻裕司、林田義行、森 章 他 **プロデューサー** 浅井 隆 **製作・配給** アップリンク 2004/日本/1時間58分/DVCAM/カラー/ステレオ/英語字幕

「『女学生ゲリラ』の当時、映倫では感じた表情をしなれば、乳首をいじくりまわすくらいならいいと言っただけ。男女がフルサイズで重なるシーンは、両方が全裸だったからだ。だからもしもしセックスしてるシーンでもなぜか男がパンツはいてたらいんです」(足立正生・映画監督)

&

「東映、東宝、松竹、大映、日活というメジャー会社があつて、その監督はみんな東大や京大卒のエリート。ピンク映画というのは、権力に対してふざけんなって言うって作ってるのが旗印だったからね。エリートはみんな嫌いだよ」(渡辺護・映画監督)

&

「基本的に男性向けに作っているんですが、上映会をするとき女性がたくさん来てくれるので、女性に向けたものを作りたいという気持ちになってきます。出演している時、セックスにいたる過程が不自然だと感じる作品が多くて、スムーズにいく映画がいいなと思ってたんです。自分で監督してみると結構難しいんですね」(吉行由実・映画監督、女優)

&

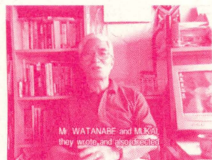
「ピンクなんでもいやらしく撮りたいな、というのはあるんです。『スワッピングナイト・危険な戯れ』ではないやらしい絡みをがんばって撮りました。直接的ないやらしさではAVにかなわないけれども、下半身というより頭をくすぐっていいやらしい気持ちにさせられないかと思ってやっています」(女池充・映画監督)

&

「当時、日活ロマンポルノは制作費を一本2千万、3千万とかけてきましたからね。ところが、ピンク映画はそれだけのマーケットがないから、ペイできない。今でもピンク映画が生き残っているのは、低予算、少人数でやっているからです」(森章・新東宝映画営業部長)

&

「『神田川淫乱戦争』という僕の商業映画デビュー作がピンク映画でした。当時ピンク映画の製作会社に言われたのは、本の映画の中に6、7回絡みのシーンが必ずあること、女優が3人裸になることが絶対条件でした。それさえ守っていればあとはなんでもいい。形式だけ守って好きな事をやる、それがピンク映画なんだよ」(黒沢清・映画監督)



M. WATANABE and M. KUROKI
They were and are shocked.



Shigeo FUKUDA
I was shocked but I didn't regret.



I felt it was a little bit
strange but to the knowledge.



I needed 6 or 7 days.



Naoki YAMAMOTO
I was a little bit from film,
the scene film.



Kiyoshi KUROSAWA
very strong connections
in the pink film world.

**5.14(土)より
ロードショー**

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町37-18トツネル2F TEL03-6821-6821 www.uplink.co.jp

当日一般¥1,500 / 学生¥1,200 / シニア¥1,000
毎週水曜、日曜最終回(レイトは除く)、月曜初回
毎月1日は一律¥1,000!

| 11:40 | 14:00 | 16:20 | 18:40 |
毎週水曜日は18:40の回休映

UPLINK X

渋谷東急本店右側道200m右手

